

公同礼拝

2024年11月3日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄 長谷川ゆり子(夕)

前 奏

招 詞 イザヤ書 12章2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エゼキエル書 33章10～20節(旧1350)

マタイによる福音書

25章31～46節(新50)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 174

説 教 「裁きを信じて」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 293

聖 餐 式

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

11月の祈り

主にある収穫を覚え、見えないものに向けられている主の守りと導きを知ることができるように。

時が良くても悪くても、礼拝と御言葉の恵みを確かめ、そこに生きることができるように。

教会に連なる子どもたちが祝福され、心も体も健やかな成長が与えられるように。

高齢や一人暮らしの兄弟姉妹が支えられ、互いに覚え合い、祈り合うことができるように。

紛争の地に平和がもたらされるよう祈りが力づけられるように。

今日の祈り

臨時教会総会が守られ、主の導きが与えられるように。

日本基督教団に属する諸教会が力づけられ、それぞれの課題と困難が乗り越えられるように。

幼稚園の歩みが力づけられ支えられるように。

「裁きを信じて」 高橋和人

マタイによる福音書 25章31～46節

主イエスの説教の最後になる。終わりの時の様子だ。人の子主イエスが栄光に輝いて天使たちをみな従えてその栄光の座に着く。そこではクリスマスの告知と同じく天の様子が示される。壮大な場面だ。

栄光は主イエスの本来のお姿。その座は御心が行われ、天の御心が実現される場所となる。

全ての国の民が集められ、より分けられる。主が裁きの座に着き、裁きの時となる。主は右側に分けられた者に祝福を告げ、天地創造の時から用意された国を受け継ぐ者とされる。

もう一方、左側に分けられた者には「この者ども

は永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかる」と言われる。

主は生けるものと死ぬるものとを裁きたもう方(使徒信条)と信じられる。そこには信仰の恵みがある。世界に始めがあり終わりがある。神が始められ終わらせられる。その中で人は一度きりの生涯を生きる。終わりの時の裁きは、それが空しく過ぎ去るのではなく、神が見届け結論を出されることだ。

神の御前に一人ひとりが立たせられる。過ぎ去って無くなるのではない。裁きは何が正しいかを明らかにする。主の御心が行われたかをご覧になる。

主の御心は主イエスの存在にある。主イエスは右側の者には、主イエスの窮乏と危機の時に助けたと言われる。彼らには覚えがない。

そこで、主は「はっきりしておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」と答える。左側には、彼らがそうしなかったと言われた。どちらもその自覚がない。むしろ左側のものは自分はそうしなかったのかと答える。

これは深く考えさせる。良き業に生きられたのか。小さいものは誰か。自分はそうしたのか、そうしなかったのか。自覚のないまま主の前に立つ。

主は偽善者を嫌われた(23章)。自分の業を誇る者たちだ。むしろ悔いせずおれるものに目を向けられる。正直に言えることは、善意に生きること、人を助けることに、主の御心に適ったことができなかったことである。赦されるほかにないものが十字架によってよって赦されることを信じるほかにない。

主は弟子を小さいものとされた(11:42)。主が小さい者を思いやってください。最後まで頼ることのできるものは主の十字架の贖いに委ねることだ。